

音楽芸術表現専攻（電子オルガン）

ディプロマ・ポリシー

研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。

具体的には、

- ・電子オルガンの実技試験を通して、入学時に比べてより高度の演奏能力を身につけ、ソリストまたはアンサンブルのプレイヤー、および指導者として将来活躍できる可能性があることが認められること
- ・電子オルガンの演奏や指導についての広範な知識や能力が身についたことが、試験により確認できること。また試験やコンサート等を通して、より高度な合奏能力を獲得したことが確認できること
- ・音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目等の試験を通して確認できること。さらに修士論文もしくは修士研究を修めること

である。

その上で、学位審査に通ることが必要である。

カリキュラム・ポリシー

電子オルガンの分野において専門性の高い研究を行うために、研究計画書を作成して目標を定め、それに基づいて研究を進める。

最も重要なのは、徹底した個人レッスンを通して、高い演奏技術や表現法を獲得することである。さらに、さまざまな形態の合奏の研究・実践ならびに、指導のための実践的研究を行う。また音楽全般、芸術全般にわたる広範な知識を身につけると同時に、演奏することと論理的に思考することの統合を図るために修士論文または修士研究を執筆する。

【履修例】

（例1）演奏家を目指す

必修（専門）	音楽芸術表現実技（電子オルガン）①	4
	音楽芸術表現実技（電子オルガン）②	4
必修（共通）	音楽研究法基礎	1
	西洋音楽史特殊講義	2



選択必修（専門）	課題研究Ⅱ	1
----------	-------	---



コース選択 （専門）	合奏特別演習①	2
	合奏特別演習②	2
	室内楽特別演習①	2
	室内楽特別演習②	2



選択（共通）	学外実習研究①	1
	学外実習研究②	1
	作品研究特殊講義Ⅱ	2
	作品研究特殊講義Ⅳ	2
	西洋音楽史研究Ⅲ	2
	西洋音楽史研究Ⅳ	2
	音楽芸術と社会特殊講義Ⅰ	2
	音楽芸術と社会特殊講義Ⅱ	2
	実践英語研究①	1



修了要件

32単位以上

計 35

（例2）指揮者を目指す

必修（専門）	音楽芸術表現実技（電子オルガン）①	4
	音楽芸術表現実技（電子オルガン）②	4
必修（共通）	音楽研究法基礎	1
	西洋音楽史特殊講義	2



選択必修（専門）	課題研究Ⅰ	1
----------	-------	---



コース選択 （専門）	指導法特別演習 （電子オルガン特別講義）	2
	合奏特別演習①	2
	合奏特別演習②	2



選択（共通）	学外実習研究①	1
	学外実習研究②	1
	作品研究特殊講義Ⅱ	2
	作品研究特殊講義Ⅳ	2
	西洋音楽史研究Ⅱ	2
	西洋音楽史研究Ⅲ	2
	西洋音楽史研究Ⅳ	2
	音楽指導論特殊講義	2
	実践英語研究①	1
	実践英語研究②	1



32単位以上

計 35

【基本的な注意事項】

- ・右表中※印は半期科目。
- ・履修例を参考に履修登録をすること。
- ・教職専修免許状取得希望者は、教職欄に○が付いている科目を24単位以上修得すること。
- ★「課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修するにあたっては1年次に「音楽研究法基礎」を修得済であること、また、留学生等は日本語能力検定試験N2レベル以上を取得していることを必須条件とする（履修登録期間より前にN2レベル以上を取得できていない場合は、「課題研究Ⅲ」を履修すること）。

【実技試験注意事項】

- ・演奏時間は次のとおりとする。
1年次：15～20分
2年次：20～30分

音楽芸術表現専攻（電子オルガン）

2022年度入学

科目区分	教職	科目名	1年次			2年次			備考
			必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
専門科目		音楽芸術表現実技（電子オルガン）①	4						
		音楽芸術表現実技（電子オルガン）②				4			
	○	課題研究Ⅰ（修士論文）					2		} 3科目のうちどれか1科目 選択必修 ★履修条件あり（左ページ参照）
	○	課題研究Ⅱ（修士研究）					1※		
		課題研究Ⅲ（修士研究）					1※		
		電子オルガン特別講義			2※				
		室内楽特別演習①			2				
		室内楽特別演習②						2	
		合奏特別演習①			2				
		合奏特別演習②						2	
	○	指導法特別演習			2				
		舞台発声研究（仏語）Ⅰ			1※				
		舞台発声研究（仏語）Ⅱ			1※				
		舞台発声研究（独語）Ⅰ			1※				
		舞台発声研究（独語）Ⅱ			1※				
共通科目		音楽研究法基礎	1※						
	○	西洋音楽史特殊講義	2※						
		学外実習研究①			1				所定の審査を受け、履修指示された者のみ履修可。シラバスを参照のこと。
		学外実習研究②						1	
		音楽と学術研究Ⅰ			1※				
		音楽と学術研究Ⅱ			1※				
		ピリオド演奏研究Ⅰ			2※				
		ピリオド演奏研究Ⅱ			2※				
	○	作品研究特殊講義Ⅰ			2※				
	○	作品研究特殊講義Ⅱ			2※				
	○	作品研究特殊講義Ⅲ			2※				
	○	作品研究特殊講義Ⅳ			2※				
	○	西洋音楽史研究Ⅰ			2※				
	○	西洋音楽史研究Ⅱ			2※				
	○	西洋音楽史研究Ⅲ			2※				
	○	西洋音楽史研究Ⅳ			2※				
	○	音楽指導論特殊講義			2※				
		音楽芸術と社会特殊講義Ⅰ			2※				
		音楽芸術と社会特殊講義Ⅱ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅰ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅱ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅲ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅳ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅴ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅵ			2※				
		実践英語研究①			1※				
		実践英語研究②			1※				
		実践伊語研究①			1※				
		実践伊語研究②			1※				
	○	原典講読研究Ⅰ			2※				
	○	原典講読研究Ⅱ			2※				
		海外特別研修①			1				
		海外特別研修②						1	
		日本語文法とコミュニケーション研究Ⅰ			1※				} 指定された者のみ履修可 (6ページ参照)
		日本語文法とコミュニケーション研究Ⅱ			1※				
		日本語と日本社会研究Ⅰ			1※				
		日本語と日本社会研究Ⅱ			1※				
		実用日本語研究Ⅰ			1※				
		実用日本語研究Ⅱ			1※				
		日本語日本文化研究Ⅰ			1※				
		日本語日本文化研究Ⅱ			1※				
		日本語日本文化研究Ⅲ			1※				
		実践日本語研究Ⅰ			1※				
		実践日本語研究Ⅱ			1※				
		実践日本語研究Ⅲ			1※				
		実践日本語研究Ⅳ			1※				
		実践日本語研究Ⅴ			1※				

オペラ

声楽研究

ピアノ

弦・管・打楽器

電子オルガン

作曲

指揮

アートマネジメント

音楽療法